

(様式第2-1号)

日中サービス支援型共同生活援助に係る実施報告書

【評価期間】 令和7 年 6 月 1 日 ~
令和7 年 9 月 30 日

1. 事業者情報	法人名	特定非営利活動法人楽歩									
	法人所在地	長久手市作田2丁目 1 0 0 3 番地									
	運営する障害福祉サービス等事業	就労継続支援A型・就労継続支援B型・生活介護・日中一時支援・放課後等デイサービス・相談支援									
2. 基本情報	事業所名	グループホームらふう									
	事業所所在地	長久手市小深									
	住居（ユニット）名					定員 （共同生活援助）		定員（短期入所）			
	① 日中サービス支援型 共同生活援助						8 人		人		
	② 短期入所						人		2 人		
	③						人		人		
	④						人		人		
	主たる対象者 （○をつける）	○ 身体障害者		○ 知的障害者		精神障害者			難病等		
	人員配置 （勤務の体制及び勤務形態 一覧表を添付）	従事者	員数		常勤換算		従事者の資格取得状況等※1				
		管理者	1 人		0.5 人		サビ管（自発管5年）・保育士・喀痰吸引3号研修				
		サービス管理責任者	1 人		0.5 人		サビ管（自発管5年）・保育士・喀痰吸引3号研修				
		世話人	3 人		1.5 人						
		生活支援員	2 人		0.4 人		介護福祉士・保育士				
夜間支援員		3 人		1.1 人		看護師・介護福祉士					
※1 障害福祉分野での経験、従事内容及び期間、また研修等の受講経験及び資格等について具体的に記入してください。											
夜間支援体制	1 日につき 1 人～2 人										
3. 利用者 ※令和7年9月30日時点	障害種別 （重複はそれぞれ計上）	身体	1 人	知的	6 人	精神	人	難病等	人		
	障害特性等	医療的ケアが必要な者				人	強度行動障害のある者			人	
	障害支援区分	区分6	3 人	区分5	1 人	区分4	3 人				
		区分3	人	区分2	人	区分1	人	非該当	人		
	日中の過ごし方	主に住居で過ごす利用者								1 人	
		別法人の日中活動サービス事業所を利用する利用者								1 人	
		自法人の日中活動サービス事業所を利用する利用者								5 人	
その他 人（ ）											
年齢構成	30歳未満	4 人	30代	1 人	40代	2 人	50代	人	60歳以上	人	

4. 支援の実施、質の確保について	(1) 日中を住居内で過ごす利用者に対しどのような支援を行ったか。また、利用者が充実した地域生活を送ることができるよう、外出や余暇活動等の社会生活上の支援をどのように行ったか。 施設の庭に出て畑になってる野菜の収穫をしたり、近所を散策して地域を知りました。また、掃除機や、洗濯や洗濯物畳み、料理の盛り付け、配膳や料理の盛り付け等の生活に関わる事を行いました。 (2) 常時の支援体制の確保に向け、職員採用や離職防止策等にどのように取り組んだか。 月1回程度で会議を開き、利用者さんの情報共有をして支援に繋げたり、随時職員の困り事、気づき等について話す機会を設けた。また、施設の役割り、仕組み、地域資源等について調べてもらい、知識や意欲向上に取り組んだ。 (3) 職員の質の向上に向けて、研修、技術指導及び資格取得支援等にどのように取り組んだか。 視覚優位の利用者さんに対しては、文字やイラスト等を活用し、時間提示（18時夕食、19時入浴等）を行ったり、曖昧な内容ではなく具体的かつ端的に伝えるように言葉遣いを意識してもらった。内部研修では、看護師による感染症が流行った時の対応方法を学びました。外部研修では、強度行動障害に参加し、資格取得をしました。
5. 利用者の意思決定支援、権利擁護について	(1) 利用者の意思決定支援に関し、どのように取り組んだか。 コミュニケーションが難しく感じて、表情や目の動き等の非言語コミュニケーションを通して職員側の意見にならないよう気を付けました。また、一方的にならないよう〇〇ですか？と気持ちを聞いたり、二択で答えてもらったりしました。 (2) 虐待防止に向けて、どのような取組を行ったか。 スピーチロックの禁止を伝え、ダメではなく「具体的に〇〇しましょう」という肯定的な言葉遣いをしていくよう資料を読んでもらい、実践をしてもらいました。 (3) 金銭管理の支援をどのように行ったか。 まだ金銭管理を行う利用者さんはいません。
6. 地域に開かれた運営	(1) 利用者に対する計画相談支援の提供は別法人が行ったか。 全員の利用者さんが別法人の計画相談支援で行っています。 (2) 地域住民との交流、利用者家族との交流機会はどのように確保したか。 利用者家族様とは施設敷地内にあるピザ窯でピザを作って食べたり、夏祭りを開催し屋台メニューを食べたり、ウクレレの演奏会、ボランティアによるバルーンアートも楽しみました。また、地域の方に施設見学をしてもらったり、本の読み聞かせもして頂き、利用者さんの人となりを知ってもらいきっかけとなり、職員も紹介して頂きました。その他、上棟式での餅まきや内覧会見学、地域にお住まいの障害をもつ親の会の方や近隣の相談員さんに見学して頂き、ショート利用にも繋がりました。
7. 利用者の健康管理	(1) 利用者に対し、どのような方法で健康管理を行ったか。 毎朝のバイタルチェックや平常時と様子が違う時は検温をした。毎朝の施設内掃除（居室、共用部分等）、衛生管理と共にその都度手洗いや入浴を行っています。排尿、排便の確認、記録を行い、水分摂取やお通じがよくなるよう野菜中心の料理を提供しました。 (2) 利用者の嗜好や健康に配慮した食事について、どのような提供体制であったか。 食事は手作りで、家庭的な料理を提供しています。毎食野菜をたくさん取り入れたメニューであったり、塩分控えめにした煮物などの和食を提供しています。時には利用者さんの好みに合わせたメニューにしたり、体重管理をしている方にはご飯量を決めたり、麺が苦手な方にはご飯にしたりと個人に合わせて提供しています。
8. 緊急時・災害時の支援体制の確保	(1) 災害時における、利用者への安全対策を講じているか。（避難訓練の実施、いざというときの連絡体制の確認など） 緊急連絡網、緊急時対応手順、緊急時対応マニュアルを作成し、職員の目に届く場所に掲示してあります。また、9月11日に避難訓練を実施し、各利用者さんの動きを把握・確認しました。 (2) 緊急時の一時的な支援等の受入れに対応したか。 緊急時はまだありません。
9. その他	(1) 事業所独自の取組の有無及びその成果 近隣に様々な事業所があり、施設開所前まで各事業所へ出向き、色々な利用者さんと接し、学ぶ機会を設けました。また、敷地内でウナギを焼いて夏の暑い時期に利用者さんに精力をつけてもらおうと夕飯時におもてなしをしました。その他、内覧会、夏祭りを開催しました。 (2) 評価期間中の退去の有無及びその理由 退去はまだありません。 (3) 協議会からの評価、助言、要望等への対応状況 昨年度の看護師の配置についての事前評価では募集している、常勤が望ましいと回答していたが、7月に正規職員の看護師を配置することができました。また、管理者・サービス管理責任者についても異動で内部職員を配置しました。 (4) 利用者、その家族等からの苦情等の有無及び対応状況 ご家族が用意するヨーグルトを預かって、排便の少ない利用者さんに毎食お出ししています。利用者さんが他の利用者さんが居ない間に居室に入り、置いてあった本を破いてしまったため、お詫びと新品を用意しました。居室を空ける際は鍵を掛けるなどの対策を講じてなかったため、居室を空ける際は鍵を掛ける旨を各利用者家族に連絡しました。

サービス種類			事業所・施設名			グループホームらふう																																
定員		10		前年度の平均利用者数 ※1		人		基準上の必要職員数 ※2		生活支援員 0.8人															世話人 1人													
人員配置区分 ※3			5 : 1		【生活介護のみ】平均障害支援区分 ※4		※4		【GHのみ】入居者の区分別人数 ※5															区分3		区分4		3		区分5		区分6		2				
職種 ※6	勤務 形態 ※7	資格 ※8	氏名	第1週							第2週							第3週							第4週							第5週※10			4週 (1月)の 合計	週平均 の勤務 時間	他の事業所の名 称及び職名 ※11	他事業所 での合計 勤務時間 数 ※12
				1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31				
				金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日				
管理者	1	保育士		4		4	2	4		4	4	4	4	4			4	4		4	4	4	4		4	4	4	4	4	4	4	2	88	18				
サービス管理者	1	保育士		4		4	2	4		4	4	4	4	4			4	4		4	4	4	4		4	4	4	4	4	4	4	2	88	18				
生活支援員	1	介護福祉士		8		8					8				8	8		8							8			8				64	16					
生活支援員	1	保育士											3								2	3										8						
夜勤	1	介護福祉士						8	8	8	8			8	8		8	8		8	8	8	8				8	8				112	24.0					
世話人	3					4			6.5		6.5			8	7	6.5				8	7	6.5	6.5				7	6.5	6.5				86.5	17				
世話人	1				8	4		8	8	8	8	8	8	4	8	8	8		8	8	8	8	8			8	8	8	8	8			176	44				
世話人	3							3							3													3	3				12	3				
看護師	1	看護師		8			8	8	8	8	8		8	8	8	8	8	8	8	8	8	8				8	8	8	8	8			176	40				
夜勤	4	看護師			8	8					8	8					8	8														48	16	生活介護事業所	きらり			
夜勤	3						5	6					5	6					5	6						5	6					44	11					
利用者数				3	1	1	4	4	4	4	4	2	2	1	4	4	1	1	2	2	4	4	4	4	4		4	5	5	3	3		84					
サービス提供時間				～																																		
常勤職員の勤務すべき時間数 ※13				1日:	8時間	分	1週:	40時間	分	変形労働時間制		無・有		(1か月単位・1年単位		対象職種:		労基届出日:																				
夜間支援時間帯 ※5				:	～	:	変形期間(当月1日が属する期間を記載):		月		日		～		月		日		左の期間の常勤の勤務すべき時間数:		176		時間		分		) ※13											

従業者の職種・員数	職種		管理者		サビ管		看護職員		生活支援員		世話人		夜勤		→適宜、該当の職種を記載
	専従・兼務の別		専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	専従	兼務	
常勤(人)	①	②	1		1		1		1		1		1		
非常勤(人)	③	④							1		2		1	1	
当該職種の勤務延べ時間数			88		88		176		72		274.5		204		←4週(又は1月)の合計数
常勤換算後の人数			0.5		0.5		1		0.4		1		1.1		←勤務延べ時間数÷常勤が4週(又は1月)で勤務すべき時間数 (小数点第2位以下切り下げ)

※1 「前年度の平均利用者数」欄は、新規・再開の場合は定員の90%を、定員増の場合は前年度の平均利用者数+(定員の増加分×0.9)を、これらにより難しい場合は適切な推計数を記入してください。

※2 「基準上の必要職員数」欄は、基準上又は人員配置体制上必要なサービス提供職員の人数(小数点第2位以下切り上げ)を記入してください。【職種により基準が異なる場合は職種ごとに記載すること】

※3 「人員配置区分」欄は、基準上又は人員配置体制上の人員配置体制を記入してください。(2.5:1、7.5:1など)

※4 「平均障害支援区分」欄は、生活介護を実施する場合に「平均障害支援区分の算出」(別紙31)により算出された利用者の平均障害支援区分の数値を記入してください。

※5 「入居者の区分別人数」欄は、共同生活援助事業所の場合は区分ごとの昨年度の平均利用者数[新規であれば定員の90%の人数について、区分を見込みで分ける]を記入してください。

「夜間支援時間帯」は共同生活援助事業所で「夜間支援体制加算Ⅰ(またはⅡ)」を申請する場合に記入してください。

※6 「職種」欄は、当該事業所・施設に係る全ての職種を、職種ごとに並べて記載してください。【GHで世話人・生活支援員等が「夜間支援従事者」として配置される場合は同一従業者ごとに2段階書きとすること】

※7 「勤務形態」欄は、①常勤・専従、②常勤・兼務、③非常勤・専従、④非常勤・兼務のいずれかを記号で記載してください。育児短時間勤務者等の場合は「①短」「②短」と表記してください。

※8 「資格」欄は、従業者の職種に関する資格の種類を記載してください。

※9 ※9の欄は、当該月の曜日を記入してください。

※10 変形労働時間制を採用している場合のみ、第5週まで時間数を記入し、その場合「4週の合計」欄には第5週までの合計を記入してください。

※11 「他の事業所の名称及び職名」欄は、同一法人内の他事業所で兼務する者について、その事業所名称及び職名を記載してください。

※12 「他事業所での合計勤務時間数」欄は、他の事業所での4週間(又は1月間)の合計勤務時間数を記載してください。

※13 「常勤職員の勤務すべき時間数」欄は、当該事業所・施設における常勤職員の勤務すべき時間数を記載し、変形労働時間制を採用している場合のみその内容を記載してください。

日中サービス支援型共同生活援助事前評価に係る意見等について

第2回事務局会議（令和6年11月19日開催）での事前評価における委員の意見及び事業者の回答は以下のとおりです。

1 NPO 法人楽歩（グループホーム らふう）

確認事項	回答
看護師の配置はどのようなか。	募集している。常勤が望ましいと考えている。
質はどのように担保するのか。	理念に共感してもらえる人を採用したいと考えている。専門性ではなく人を見る。足りない部分については互いに勉強しながら実施していく。
人を大切にする理念とは。	「みんなちがってみんないい」である。職員同士が認め合うことが難しくなっている。認め合える施設をつくりたい。
健康管理は、どのように行うのか。	指定基準に従う。
作業室はどのように活用するのか。	土間におくどを設置し、部屋以外に出られる場として活用したいと考えている。
管理者・サービス管理責任者が鍵になる。誰が行うか。よい人材の採用が困難。内部で検討してもよいのでは。	異動させるか、外部採用か迷っている。求人は行う予定である。現在の職員も候補者はいるため、状況によって検討する。
利用者の想定は。	既存事業の利用者で入居予定者もいる。今後、説明会も行う予定であり、病院にも声掛けを行う。

【その他の意見等】

- ・他市町の不適切事例がたくさんある。定員を埋めるために重度の方を受入れ、支援ができないということもある。十分に検討してほしい。
- ・評価は、地域とのコミュニケーションの場として捉えてもらいたい。
- ・年1回の地域連携会議が必須であるほか、愛知県のGH相談アドバイザーによる年1回モニタリング訪問がある。
- ・人と会いたくない方もいる。プライバシーの確保や障害特性に配慮してほしい。
- ・長期入院者の対応については、基幹相談支援センターにて病院への働きかけ等を行っているため連携できると良い。

日中サービス支援型共同生活援助の実施評価に係る意見等について

第 2 回事務局会議（令和 7 年 1 0 月 1 0 日開催）での実施評価における委員の意見及び事業者の回答は以下のとおりです。

NP0 法人楽歩（グループホーム らふう）

確認事項	回答
計画より職員が少ないようだが状況はどうか。	余裕があるわけではなく、虐待のリスクに不安を感じることもある。全員が顔を合わせる時間もとりにくい。研修が必要と考える。特定技能外国人も採用した。
短期入所の受入れについてはどうか。	土日を中心に子ども（中学生）の受入れが多い。平日はまだまだ空きがある。親から離れる練習や保護者のレスパイト目的で利用されることが多い。
障がい区分 6 の方が多いが、対応できているか。	3 名中 2 名は、もともと自法人の生活介護に通所している人であり、よく知っているため対応ができている。また、開設前に、職員が生活介護で研修を行い、利用者と顔見知りとなったことがよかった。
現状では、精神障害の方の入居がないがなぜか。	短期入所で利用することはあるが、入居者の音や声に反応し、その後の入居を希望されない。
地域と関わりはどうか。	施設見学やおくど・ピザ窯を活用したイベントを通して地域と積極的に交流することで、施設や利用者について知ってもらうことができた。その後、従業員になっていただいた方もいた。
夜間の人員配置はどのようになっているか。	シフトにもよるが、平日は男性職員 1 名が多い。土日には女性職員 1 名が多い。
金銭管理は行っていないというが、余暇等での金銭はどのようにしているのか。	事業所では預かっておらず、必要な分は立て替えて後日保護者に支払っていただく。利用者自身による金銭管理が難しく、家族の希望でこういった形となっている。
通院はどのように対応しているか。	家族が対応している。

運営上の課題は。	職員同士の細かい申し送りの共有が難しい。LINE を活用しているが、なかなか意見は出ない。
----------	---

【その他の意見等】

- ・重度障がい者が多く、職員の専門性（強度行動障害従事者研修の受講など）を高める必要がある。
- ・可能な限り、同性介助に努めること。セクシュアルハラスメントの防止に関する規定の作成や研修を行うこと。
- ・金銭管理について、家族の意向だけではなく本人の意思を汲み取る必要もある。お金を使うのも経験である。
- ・通院等の健康管理について、親が若いうちはできるが、親亡きあとのことも考慮して、グループホームや社会資源で対応できるようにしていくとよい。